

明日に架ける橋

2025年度 進路だより 第5号
兵庫県立明石高等学校進路指導部
2025年9月1日発行

大学入試が間近になってきました

今日から新学期のスタートです。3年生は、夏季補習の出席率が前・中・後期とも非常に高く、お盆期間中も学校で自習をする姿が見られ、また教科の質問や進路相談に来る人も多く、今からの受験本番がとても楽しみです。1・2年生も、すぐにやってくる進路実現に向けて、じっくり勉強した夏季休業になったことと思います。

7月17日に発行した「進路だより第4号」で今年度の受験スケジュールをお知らせしましたが、今月16日には2026年度大学入学共通テストの一斉出願を行います。今年度の大学入試は、新課程になって2回目の入試になります。昨年大きく様変わりした共通テストですが、今年度は大きな変更はありません。「進路の手引き」で詳しく記していますが、今年度の共通テストの概要を簡単にまとめますので、3年生はもちろん、1・2年生も今のうちから内容を十分に理解してください。

共通テスト 出題教科・科目

- [国語] 200点 90分
近代以降の文章3問110点、古文1問45点、漢文1問45点
[英語] リーディング 100点 80分、リスニング 100点 30分
*ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語での受験も可能(出願時に申請)
[地歴・公民] 1科目 100点 60分、2科目 200点 120分
下記の6科目から1～2科目を選択
(b)「地理総合・地理探究」「歴史総合・日本史探究」「歴史総合・世界史探究」「公共・倫理」「公共・政治経済」
(a)「地理総合・歴史総合・公共」より2つを選んで解答する。(50点×2)
*bから2科目を選択する場合、「公共・倫理」と「公共・政治経済」を選択することはできない。
*bから1科目、aの「地理総合・歴史総合・公共」を選択する場合、aで選択するものと同一名称を含む科目をbから選択できない
(例) bで「歴史総合・日本史探究」→ aは「地理総合・公共」で受験
[数学] ①100点 70分、②100点 70分
①下記の2科目から1科目を選択
「数学Ⅰ・数学A」「数学Ⅰ」
②「数学Ⅱ・数学B・数学C」 数学Bおよび数学Cについては、4項目のうち3項目を選んで解答する。
[理科] 1科目 100点 60分、2科目 200点 120分
下記の5科目から1～2科目を選択
「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」
*「物理基礎・化学基礎・生物基礎・地学基礎」は4つの基礎科目のうち2つを選んで解答する。(50点×2)
[情報] 100点 60分
「情報Ⅰ」

従来の大学入試センター試験より複雑で、1年生の間からの準備・勉強が必要です。各教科に関して不明の点があれば、早急に教科担当の先生まで尋ねてください。

共通テストの必要性

2026年1月17・18日に実施される今年度の共通テストですが、どのような場合に受験が必要なのでしょうか。

[国公立大学の一般選抜]

国公立大学の一般選抜は、原則「共通テスト」と各大学独自の「個別試験」(いわゆる2次試験)の合計得点で可否を判定します。ほとんどの大学が「前期日程」と「後期日程」に定員を振り分けて個別試験を実施する「分離分割方式」を採用しています。これに加えて

一部の公立大学では「中期日程」の試験も行われるため、最大3校の国公立大学に出願することが可能です。必要教科・科目は大学によって異なりますので、早期からの十分な調査・確認・対策が必要です。

[国公立大学の学校推薦型選抜]

国公立大学の学校推薦型選抜は、原則公募制推薦で行われます。9月26日の校内推薦会議で選考されれば、出願が可能です。一昨年度の入試では、国立大学の93.9%、公立大学の99.0%が学校推薦型選抜を実施しています。このうち、共通テストを課す選抜は、国立大学74.4%、公立大学40.2%でした。国公立大学全体では55.9%で、半数以上の大学が推薦といえども共通テストが必要です。必要な教科・科目も大学によって異なりますが、合否判定の方法は、書類審査＋小論文＋面接＋共通テストの成績などによって、総合的に判断されます。出願段階で、3年生1学期までの学習成績の状況(評定平均値)が5段階で4.2以上が出願条件など高い評価が必要ですので、1年生から授業・考査に真剣に取り組み、面接でアピールできるような特別活動の実績を残すことも重要です。

明石高校の多くの先輩が、この学校推薦型選抜方式で国公立大学に進んでいます。先を見据えて、1・2年生は今を頑張りましょう！

[私立大学の一般選抜]

私立大学の「総合型選抜」「学校推薦型選抜」が間もなく始まります。受験生の心理として「早く進路を決めたい」は必ず起こり得ると思いますが、第1志望を決めたならば揺らぐことなく、その大学に向かってください。第1志望校の入試に「総合型選抜」「学校推薦型選抜」があれば、受験機会は増やせばよいと思います。しかし、いわゆる滑り止めとしてランクを下げた大学の「学校推薦型選抜」を受験すれば、その大学に落ちてしまうという例は非常に多いです。

併願可の「学校推薦型選抜」に合格すれば、ほとんどが年内には入学金20～30万円程度を納めなければなりません。その「入学金がもったいないからここでいいや」「行く大学ができたから2月まで必死に勉強しなくても大丈夫」などの、心理が知らず知らず働いて、2月の第1志望校「一般選抜」受験に力が入らず、残念な結果に終わってしまいます。将来後悔しないために、最後まで第1志望校に挑みましょう。

私立大学の「一般選抜」は複数回チャンスがあります。受験日程の作戦を立てることが大切です。(受験日程の作戦の立て方は、2学期終盤の進路だよりでお伝えします)これと並行して活用してほしいのが、「私立大学の共通テスト利用選抜」です。一昨年度の入試で「共通テスト利用選抜」を実施した私立大学は530校、私立短大は134校に上ります。私立大学共通テスト利用選抜のメリットは、①受験料が安い、②出願するだけで合否判定してくれる(個別試験を受験しなくてもよい) ということです。志望大学の受験機会を増やすためにも、共通テストを受験しましょう。この場合の共通テスト必要教科は、大学や受験型によって様々ですが、「一般選抜」と同じ2～3教科が大半です。事前によく調べて、早期対策を取りましょう。

閑話

今年は太平洋戦争終戦80年にあたり、新聞・テレビ・インターネットで多くの特集を目にしたことと思います。夏の甲子園は、まれに見る激闘続きでした。太平洋戦争で唯一の地上戦が行われ県民の25%が命を落とし、その後27年間アメリカの統治下にあった沖縄の沖縄尚学高校が、沖縄勢2度目の全国制覇を果たし、大いに盛り上がりました。沖縄の多くの方は、スポーツを通して、平和を実感されたのではないのでしょうか。

沖縄だけではなくありません。8月23日の神戸新聞朝刊6面全面の特集は「語り継がれる延長25回」でした。ご存じかと思いますが、1933年(昭和8年)、開校10年の新進明石中学が第19回全国中等学校野球大会の準決勝に勝ち進み、大会3連覇を目指す強豪中京商業に挑みました。試合は延長25回、1対0で中京商業のサヨナラ勝ちで終わりましたが、この25回というイニング、試合時間4時間55分は今なお甲子園の大会記録です。この健闘を讃える碑が、野球部ネット裏に建てられており、朝霧のヤマダストアの地下ロビーには、明石を象徴する歴史としてパネル展示されています。ただ、この試合で25回を投げ抜いた中田武雄投手、当時のエースであった楠本保投手は、共に太平洋戦争で戦死しています。

私の父は1945年(昭和20年)4月に明石中学に入学しましたが、毎日が勤労働員で授業はなく、明石空襲の焼夷弾爆撃では間一髪助かったそうです。多くの明石中学校の在校生、卒業生が戦争の犠牲になりました。今は思いっきり勉強も、スポーツも、文化・芸術活動も、何でもできる。80年以上前の皆さんの先輩方はそうではなかったと、戦後80年の節目に思い巡らせて、何かを感じ取ってもらえればと願います。(責o)